

て天の戸の明行空の横雲に、入にし事ぞ不思議なる。

〔萬葉集十六有由縁井雜歌〕無心所著歌

吾妹兒之額爾ワギモコガヒタヒニ生流オウル雙六スダク乃事負コトヒ乃牛之倉上之瘡ウシノクラウラヒノカサ

右歌者、舍人親王令待座曰、或有作無所由之歌人者、賜以錢帛于時、大舍人安倍朝臣子祖父乃作、斯歌獻上、登時以所募物錢二千文給之也。

〔拾遺和歌集十九雜戀〕題まらず

よみ人まらず

すぐろくのいちにはにたてるひとづまのあはでやみなん物にやはあらぬ

〔法隆寺寶物和歌〕雙六調度

黑白の争ひきほふ雙六によしあし六の道やわきけむ

〔男重寶記〕雙六より出たる詞

一小者を二才といふより、重でつち一といふ名出たり、一盛の目に切、一筒がよはひ、一重でつち五とし、一重六ちやうろくかく

紙雙六

〔耽奇漫錄十集〕雙六廿八種

淨土雙六四種

古畫南無佛

古板同

河部侯藏版三一二

西村屋版同

道中雙六延寶天和

行の板

恵方參詣雙六笠森於千土

おでこ雙六岩刻

藤川平九郎大てけ雙六屋鱗板

伊勢は津でもつ雙六

鳴もの盡し雙六大坂

岩戸雙六金

市村顔見世雙六丸小

福神雙六

染分手網雙六

かわるが早い雙六屋鱗板

ほうしやも、雙六 甘露

壺雙六鶴屋

道中名所雙六西宮

同屋鱗板

京大坂船路雙六四條升 せりふ

雙六 顔見世雙六岩戸

振分道中雙六澤村

太郎稻荷雙六和泉

東歌伊呂波雙六